

大阪赤十字病院

研修プログラム統括責任者：西 憲一郎（麻酔・集中治療）

専門研修指導医：

西 憲一郎（麻酔、集中治療）

岡本 明久（麻酔、集中治療）

小松崎 宗（麻酔、集中治療）

辻井 俊二（麻酔、集中治療）

関口 貴代（麻酔）

楠 淑（麻酔）

認定病院番号：59

特徴：当院は大阪市内の地域医療で中核をしめる救急救命センターとして多彩な緊急症例を受け入れるとともに、ロボット支援下内視鏡手術、ハイブリッド手術などの高度医療にも対応しています。年間約 4800 件の麻酔科管理症例を通じ、新生児～小児、周産期医療、心臓大血管手術、開胸、開頭症例など学会が定める必要症例のすべてを研修することができます。週 1 回（平日）の当直では、専門医とともに緊急手術の麻酔管理を行うほか、集中治療部での患者管理も研修できますが、翌日は業務フリーで午後には帰宅可能です。さらに土日休日の当直・オンコール無しなど、研修中のワークライフバランスにも留意しています。

連携 A 病院

京都大学医学部附属病院

研修プログラム統括責任者：江木 盛時

専門研修指導医：江木 盛時（麻酔、集中治療）

溝田 敏幸（麻酔、集中治療）

甲斐 慎一（麻酔、集中治療）

川本 修司（麻酔、ペインクリニック）

瀬尾 英哉（麻酔、集中治療）

加藤 果林（麻酔）

木村 聡（麻酔、集中治療）

辰巳 健一郎（麻酔、集中治療）

松川 志乃（麻酔、心臓血管麻酔）

橋本 一哉（麻酔、集中治療）

武田 親宗（麻酔、集中治療）

専門医： 廣津 聡子（麻酔，集中治療）
池浦 麻紀子（麻酔）
白木 敦子（麻酔）
宮尾 真理子（麻酔）
山田 瑠美子（麻酔，心臓血管麻酔）
山本 菜都美（麻酔）
南迫 一請（麻酔）

認定病院番号： 4

特徴：すべての外科系診療科がそろい、数多くの症例の麻酔管理を経験することができる。肝移植、肺移植、人工心臓植込み手術、経カテーテル大動脈弁留置術、覚醒下開頭術などは他院では経験することが難しい手術であり、経験豊かな指導医のもとでこれらの特殊な手術の麻酔管理を修得することができる。集中治療部研修では、重症患者の全身管理を身につけることができる。

公益財団法人 田附興風会医学研究所 北野病院

研修プログラム統括責任者：加藤 茂久

専門研修指導医：加藤 茂久（麻酔）
足立 健彦（麻酔、集中治療）
宮崎 嘉也（集中治療）
黒寄 明子（麻酔）
原 朋子（麻酔）
前川 俊（心臓血管麻酔、集中治療）
柚木 圭子（麻酔）
直井 紀子（麻酔）
村田 裕（麻酔）
専門医： 中村 緑（麻酔）
中辻 史織（麻酔）
辻 和也（麻酔）

認定病院番号 65

特徴：地域医療支援病院。大阪市北区で中心的な役割を果たす病院であり、年間約3600件の非常に多様な手術を行っており、心臓血管外科、小児外科を含むほぼ全ての領域に関して手術麻酔の研修が可能であり、12名の専門医の下で十分な余裕を持って研修を積むことができる。心臓血管外科麻酔（経食道心エコー）、小児麻酔、超音波ガイド下神経ブロックなどはそれぞれ専門とする指導医の指導を受けることができる。

科内でのカンファレンス、レクチャー、抄読会も定期的に行っており、勉強の機会には事欠かない。また専攻医の学会発表や院外研修を科として積極的にサポートしており、機会は豊富である。麻酔科が主体となって集中治療部（ICU）を運営しており、日本集中治療医学会専門医研修認定施設、心臓血管麻酔専門医認定施設でもあるので、十分な集中治療研修、心臓血管麻酔研修を行うことができる。

市立岸和田市民病院

研修実施責任者：谷本 圭司

専門研修指導医：谷本 圭司（麻酔、集中治療）

東 恵理子（麻酔）

黄 輝広（麻酔）

認定病院番号： 541

特徴：大阪府南部（泉州地域）の中核病院であり、この地域の急性期医療を担っています。麻酔科管理症例は年間約 2000 例あり、心臓血管外科を含むほぼ全科の手術麻酔を経験できます。外科系各科の垣根が低く、コメディカルとの関係も良好で、働きやすい環境です。

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

研修実施責任者：川端徹也

専門研修指導医：川端徹也（麻酔、小児麻酔）

比嘉久栄（麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔）

杉浦（兼城）真帆（麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔）

伊敷聖子（麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔）

野中信一郎（麻酔、小児麻酔、区域麻酔、心臓血管麻酔）

専門研修指導医：増茂 薫（麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔）

北原武尊（麻酔、小児麻酔）

松田龍太（麻酔、小児麻酔）

認定病院番号：409

特徴：地域医療支援病院、小児麻酔専門施設、心臓血管麻酔認定施設

新生児から高齢者まで、麻酔関連の専門資格取得に必要な経験症例を全て網羅

1. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2023年9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。書類審査および面接にて採否を

決定する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、大阪赤十字病院麻酔科専門研修プログラム website, 電話, e-mail, 郵送のいずれの方法でも可能である。

連絡先

大阪赤十字病院 麻酔科・集中治療部 部長

西 憲一郎

nishiken@osaka-med.jrc.or.jp

大阪府大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30

Website <http://www.osaka-med.jrc.or.jp>

2. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は

算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

3. 専門研修方法

別途資料「**麻酔科専攻医研修マニュアル**」に定められた 1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

4. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1 ～ 2 度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導の元、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪い ASA 3 度の患者の周術期管理や ASA 1 ～ 2 度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修 3 年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

5. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用

いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。

- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

6. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

7. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

8. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合

は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。

- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

9. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての北野病院、岸和田市民病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価

(Evaluation) も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。